

# 【 九 重 町 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語

- 教科の正答率で見ると、国語は全国と比較して+1.3ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「話すこと・聞くこと」-3.0ポイント、「読むこと」-5.3ポイントが全国平均を下回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」+6.5ポイント、「書くこと」+0.8ポイント、と、2領域で全国を上回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」±0ポイント、「短答式」+9.6ポイント、「記述式」-2.8ポイントであった。
- 正答度数分布では8問（14問中）正解の割合が多い。
- 正答度数分布で、0問～3問のみ正解の児童が1.4%いる。
- 無回答率は5.5%で、全国（4.3%）と比較して+1.2ポイントであった。

※全国と比較して、特に「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見つけたりすることができるようにする。
- 話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり、資料を活用して自分の考えが伝わるように話したりすることができるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数

- 教科の正答率で見ると、算数は全国と比較して－3.2ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「数と計算」－6.3ポイント、「図形」－3.4ポイント、「測定」－4.5ポイント、「変化と関係」－1.6ポイント、「データの活用」－2.5ポイントと、すべての領域で全国を下回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」－2.6ポイント、「短答式」－2.6ポイント、「記述式」－5.4ポイントであった。
- 正答数度数分布では15問・12問（16問中）正解の割合が一番多く、8問以下の割合が全国平均正答率と比較して多くなっている。
- 無回答率は2.6％であり、全国（2.6％）と同じであった。

※全国と比較してすべての領域で課題があるが、特に「数と計算」「測定」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理することができるようにする。
- 問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場合を理解したり、除法の結果の意味を解釈したりすることができるようにする。
- グラフから数量や項目間の関係を読み取ることができるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語

- 教科の正答率で見ると、国語は全国と比較して－1.6ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「話すこと・聞くこと」－3.5ポイント、「書くこと」－2.5ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」－0.5ポイントであり、「読むこと」＋0.1ポイント、と、1領域で全国を上回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」＋0.1ポイント、「短答式」－0.8ポイント、「記述式」－4.2ポイントであった。
- 正答数度数分布では9問（14問中）正解の割合が多い。
- 正答数度数分布で、0問～2問のみ正解の生徒はいなかった。
- 無回答率は2.6%で、全国（4.4%）と比較して－1.8ポイントであった。

※全国と比較して、特に「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：国語

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるようにする。
- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるようにする。また、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることができるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学

- 教科の正答率で見ると、数学は全国と比較して－9.2ポイントであった。
- 学習指導要領の領域等の正答率では、「資料の活用」＋1.3ポイントであり、「数と式」－13.6ポイント、「図形」－15.9ポイント、「関数」－5.2ポイントと、1領域で全国を上回った。
- 問題形式別平均正答率では、「選択式」－1.7ポイント、「短答式」－7.5ポイント、「記述式」－14.1ポイントであった。
- 正答度数分布では8問（16問中）正解の割合が一番多い。また、低位層の生徒も多くいる。
- 無回答率は9.2%であり、全国（11.2）と比較して－2.0ポイントであった。

※全国と比較して、特に「数と式」・「図形」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

次のような視点を持って指導を行っていく。

- 文字を使って数や図形の性質を説明したり、方程式を解いたりする場面において必要となる、次のことをできるようにする。
  - ・数・式などを活用して、数学的に処理すること
  - ・正式の加法と減法の計算をすること
- 事象を数学的に考察する場面で、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるようにすることや、発展的に考え事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるようにする。
- 図形の性質を考察する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現できるようにすることや、筋道を立てて考え事柄が成り立つ理由を説明できるようにする。

# 【 九重町 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小中学校：学校質問紙

##### ○肯定的な回答

- ・学校として業務改善に取り組んでいる。
- ・学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。
- ・学校内の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり検討したりしている。
- ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導ができています。
- ・職場見学や職場体験学習を行なっている。
- ・個々の教員が、自ら専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研修会等に定期的・継続的に参加している。
- ・保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している。

##### ○一部課題が見られる回答

- ・教員の資質能力の向上について学びたいと考える校長が過半数を超えている。
- ・コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から授業を行うための準備ができていますか。
- ・前年度までに各教科の授業などで、調べたことや考えたことを800字程度でまとめさせたことがあるか。
- ・国語や算数の指導で発展的な指導を行ったか。

### 2 九重町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 1 教育条件整備
- 2 研修機会の保障と研究会等の情報提供
- 3 組織的な学力向上の推進と授業改善
- 4 ここのえ学園基本計画に基づいた小中連携・地域保護者との連携の推進
- 5 ICT機器を使用しての授業を行うための準備

# 【 九 重 町 】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

○小学校において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか
- ・5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか
- ・あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか
- ・5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- ・国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか
- ・国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか
- ・5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか

○小学校において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
- ・普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
- ・学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
- ・新聞を読んでいますか
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- ・算数の勉強は好きですか

○中学校において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ・友達と協力するのは楽しいと思いますか
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
- ・学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか ※「教わっていない」が肯定的評価
- ・新聞を読んでいますか
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- ・1，2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか
- ・普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか
- ・1，2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか
- ・1，2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか
- ・1，2年生のときに受けた授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- ・国語の勉強は好きですか
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか
- ・国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか
- ・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか
- ・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか
- ・1，2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができましたか
- ・これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか

○中学校において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか
- ・学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
- ・あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか
- ・あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか
- ・数学の勉強は好きですか

## 2 九重町の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

### <成果>

- 規範意識が高い。
- 学習習慣が身についている児童生徒の割合が高い。
- 「総合的な学習の時間」を始めとした課題解決学習が進められている。
- 授業の中でグループやペアでの話し合い活動が仕込まれている。
- コンピュータ等のICT機器を使用しての学習が行えている。

### <課題>

- 肯定的な回答が低い教科は、学力にも課題がある。よって教科に対する意欲化や学ぶ目的を明確にする取組が必要である。そのためには、教科指導において日常生活を結び付けることも大切である。
- 小中ともに家庭学習の在り方について再考する必要がある。

以上のことから、新大分スタンダード、小中7年間を見通した総合的な学習の時間を活用した「ここのえ学」、ペア・グループ活動を取り入れた授業（協調学習も含む）の取組が、学校全体で組織的に推進されていると推察できる。しかし、学校ごとに見ていくと取組に大きな差があることも明らかになった。

以上のことをふまえ、今後は授業やペア・グループ活動における課題の設定についての研究、地域教材の掘り起こしと地域人材の有効的な活用、家庭学習になどについて小中が連携した取組をよりいっそう推進していくことが必要である。